

2019年度GTセミナー GTサミット2019 2019.8.19~8.20

第131号 2019年9月2日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていくよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢



GTサミット2019

2019年8月19日～20日にGTサミット2019が
東京都中央区のコングレススクエア日本橋にて開催しました。

全国から100名程の先生方が集まり、園見学や各地域実践発表、意見交換会等を2日間に渡り行いました。

外部講師として、中国で「見守る保育」の通訳で活躍されている
戒 夢婷様（ロン ムテイ）をお招きしました。

1日目 2019年8月19日(月)

- 10:00～ 園見学
13:30～ 講演 藤森代表（ギビングツリー代表）
15:00～ 講演 戒 夢婷様（ロン ムテイ）
17:15～ 意見交換会

2日目 2019年8月20日(火)

- 9:30～ 地域活動報告
12:00～ 昼食
13:00～ Q & A
16:00 終了

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

GTセミナーにご参加頂いた園長先生方から寄せられた質問について、ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

眠育の中で3歳以上はお昼寝はしなくていいということでしょうか？

実際は夜にぐっすり寝れる時間が取れることが基本で、そのためにあまりお昼寝はいらない。長く寝る必要はない、という考え方だけれど、緩やかに体を休ませるくらいで、無理やり寝かせる必要はなく、夜にぐっすり寝かせた方がいいというのが全体的な考え方です。お昼寝の効果もあるが、実際、眠育でいうなら、夜に寝た方がいいが、最近夜に寝ない子が増えている。不登校の子も睡眠障害の子が多く、夜に寝れなくて、朝起きれないで不登校になる子が多いと言われる見解が出ています。私からしたらそうではなくて、年長でも寝る子ことが必要な子がいれば、3歳でも寝ない子もいるけど、小さい子は全員寝かせて、年長は起こすというが、年長でも寝る子がいるんじゃないか、それと同じように3歳でも寝ない子もいるんじゃないかという考え方です。

4歳児の子が、うんちが漏れていても気にしない。お家の様子を聞いたら2時か3時くらいまでゲームをしていて、朝8:30くらいまでは連れて来てくれるが、睡眠が足りなくて、以前ゲーム脳というのを聞いたがまさにそれかなと思っています。早く寝かせてもらうように言って、それでも23時くらいに寝るようになったら変わってきたているが、まだ早くはなく、少しずつお母さんに話しながら、睡眠サイクルを変えて、ゲーム脳がこういうことだと実感しています。

一時期、川島先生のゲーム脳が流行って、専門家から言うと正しくないと言われたが、ゲームをすると、やらない時は下がって、やると上がったのが、長くやっていると、やらないときまで下がらなくなる。お年寄りと同じように、排泄に気付かないようになるというのを出した説で、私の妻が英語を教えている時に気付かない生徒がいた。うんちを漏らしても、本人が気づかないで、ゲームばかりをしていた。それは知能とは関係ないので、成績がいいと、親は成績を維持するためにゲームを許してしまう。あの本で本当そう思ったのだが、正しくないということで葬られて、最近は言われないが、実感としてはある。やってもいいけど、時間を決めてやるとか、やらない時間を増やすとか、リズムを取った方がいい。やらない時間まで、やっている脳になってしまふ。後は小さいうちの排泄の自立でよく言うのが、排泄の自立は、気持ち悪さを感じることで、自分で止めてトイレするのが自立だが、トイレですることが自立だと思っていると、時間を決めて行かせて、やれたねと自立したと思うが、そうすると、トイレに行く時間を指示しないと漏らすことがあるので、自分で気持ち悪さを感じることで、時間を決めて指示して行かせて出来るようになったからと言って、おむつが取れたねということではない。言わないと漏らしてしまうので、いろいろな理由がある。一つはそういう親だと、生活リズムが出来ていないので、指示していくと少しずつ直っていくことがあるかもしれない。

先生たちの意図は必要で、今年は会話の質ということを園で取りあげています。子どもたちにどういった声掛けをした方がいいのかや、どういった意図を持った方がいいかを職員が考えるようになってきていますが、日々の生活を見ていくと、言い過ぎてしまうと誘導になってしまうし、誘導と意図の境目を自分の中でどう 区別していくべきか、ケースによって違うと思うが迷うところがあります。

前に幼稚園の先生が私の園に見学に来たことがあり、私が居なくてうちの職員が案内をしたら、うちの環境を見て、意図性がないと言っていたと聞いた。「見守る保育」と言う言い方の中で、意図はどうかということでパワポを作った。私からすると、意図は目に見える意図と、私たちは環境を通した意図ですね。やらせる意図ではなくて、誘導と違うと思います。環境を用意することで、意図することが基本だと思います。それは、選んでやろうとするのは、子ども自身の自発的行為なんですね。誘導は、子どもを誘導していくことになるが、そこが違うが、私は意図はあると思っている。ある意味では、どんな子にするかというのも意図であるし、環境や子どもが自発的にしていくかという話。昔は大人が導いていかないととか、系統的に順序を立てていかないといけないと、系統性保育や誘導性保育、感化誘導とか。それは意図するかもしれないが、意図したことを、どう実現していくかの手法の問題だと思っているんですね。昔に作ったパワポだが、家庭と違う子どもの育ちということで、子ども集団の役割だが、愛着という考え方。家庭では親との愛着形成があるが、保育園では、多様な人との信頼関係。愛着というのをそのまま園に持ち込むのは変で、色々な人との信頼関係のもとに、されていく。愛着は、親との愛着で違うだろうというのが一つの意図。言い方としたら、保育園の役割は、身近な信頼関係を持った多様な人たちの見守りの中で、子どもたちは自発的・主体的に環境に関わるという言い方。そして、園にしかない環境に関わる中で、大事なのが子ども同士の関わりということで、質の高い保育で書かれたが、上は保育者との関わりのことで、下は子どもの遊びは、子どもが中心で、教師は繋ぎ発展させることが質が高いという研究がある。赤ちゃんから相手をじっと見たり、触ろうとする。最近見せていないが、外国で出産をする日の2家族の写真です。出産するので産院に行く夫婦。産院に着くと出産します。出産して、生まれた赤ちゃんをお母さんの所に連れてきて、抱っこしてもらいます。その次にお父さんに抱っこしてもらいます。私は自分の孫が生まれたときに、始めたお父さんが抱っこした時の感動を忘れないで欲しいと思います。後日合いに行くときに、対面室赤ちゃんを連れて来てくれて、見に行った時、赤ちゃんを二人を向き合わせていました。本当かどうかわからないが、新生児を対面させると赤ちゃんが触っている。表情もニコッとしている。これは「最初の友達」というタイトルなんですが、最初の友達は新生児時からできる。これもおむつメーカーのCMです。今言ったように触る、足を触っているが、こっちの子は足で手を触り、お互いが主体である。同じものを触り、共同作業になるが、そうすると同じものを見る。そして、積んでいく。動画では長いが、動作を真似るだけでなく、音も真似ている。人は言葉に入る前に、人間の進化はこれだろうという想定の写真です。この子たちはペットボトルで音を鳴らすと動作を真似るのではなくて、音を聞いた瞬間、同じ音を出そうとする。見て動作を真似るのではなくて、同じ音を出せるかをとっさに分かるのは不思議。昨日、スミスの経済学の話をしたが、スミスが需要と供給の話で面白いのが、最後、スミスは人がそれぞれ利益を追求すれば、見えざる手が働いて、社会の発展につながると主張した。何かというと、人間は利己的に見えようと、人の運命に関心を持つ。何らかの原理が本性の中にあると、道徳感情論の中に書かれている。人間が他人と同じ感情が抱こうとする共感が、社会を形成する前提と位置付けている。ですから、高度化した見えざる手は、希少な物やサービスが拡大になった。こういう技術が進めば進むほど、共感を伴う価格が大事になってくるかもしれないと言っている。もっと行き着くと、共感に伴う価格設定になるのではないかと言われている。赤ちゃんを見ると共感が見える。その次に積み始める。3歳で積んだ作品、4歳がやるともう少し進み、5歳になると複雑になると、お互いが教え合う。それが結果的に大きな町づくりになる。これが異年齢だと、ダイナミックな作品になる。子ども同士、異年齢であることより大きくなってくる。ということで、先ほど言った、繋ぎ発展させるということを言ったが、発達は身体や精神などが成長し、より完全な形態や機能を持つようになること。発展は、物事の勢いなどが、伸び広がって盛んになること。物事がより進んだ段階に移ったこと。私たちは、子どもの発達をまずさせていかないといけないし、発展させていく意図を持たないといけない。それに対して、こういう図を作った。横軸は子どもたちが年齢によって発達していきます。それぞれの発達に対して拡げていきます、発達は保証するけど、あまり発展させないのが保育園。幼稚園は発達をさせないで、発展をさせようとし過ぎる。そうではなくて、この面積を広げるのが保育だろうと

思っている。これは例として、先生がお集りで集めて、これを発展させて子どもたちが集める。公園でブランコで遊ぶのを発展させて、森でぶら下げるとか、先生がそう捉えて膨らませてあげると仲間で発展していく。虫探しをしていたら、写生をしていたので虫図鑑にしたり、その特徴が面白い。蝶々の特徴飛んでいる。読書だったら、本を読んでいるのを発展させると、皆に読み聞かせをしたり、発展させていく工夫を先生が持って行っている。メロディー音を一人で弾いているのを皆で合奏したり、雑巾掛けを年長に教え、それを教えてあげる。異年齢の良さで、文化を伝承していく。自然探検では、裏山で探検したことで秘密基地を作ったり、都会でも裏の公園でも出来る。細長く紙を丸めて遊んでいたら、普通剣にするが、柱にして家を作り始めた。雨でぬれたら壊れてしまって、せっかく作ったのにと言っていたので、何気なく木を置いておいたら家を作ったりしていた。公園へ行ったら、石でままごとをしていて、玩具でままごとをしていて、そうしたらレジを作り始めて、レストランごっこに発展していった。今はやりのプロジェクト保育ですね。子どもの興味を膨らませてあげる。ある子が城に興味を持っていて、ブロックで作り始めた。先生は何気なく写真集を置いておいたら、城下町を作り始めた。何日かかけて興味を持っていることに対して、本を置いておいて子どもは作り始めた。女の子たちは城下町の中に、コンビニを作ったり、これが城下町？と思ったが、作っていた。最終的な意図は、私たちは、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」（教育基本法 第1章教育の目的及び理念）ここが教育と目的です。保育園でしかできない、ならではの意図がある。その有効な方法がプロジェクト保育ではないが、0から先生がではなく、子どもたちが芽生えたことを発展させていく。それを誘導というのか、発展というのか分からぬが、誘導は道筋まで示してしまうことだと思います。発展はヒントを置いておいて刺激され子ども自ら広げていくことだと思います。

うちの園で異年齢を取り組んで10年。例年11月くらいになると年長は小学校に入ることもあるって、専用ゾーンを作っています。そこに2歳が新たに入って3,4,5歳児を大きいグループと呼んでいますが、翌年度に向かって2,3,4の異年齢のグループが出来てやっていく。今年うちの園で年長が当初40名いて20名ずつの2グループを作っていて、そのうちの一人の園児の親が離婚して5月退園し、最近、虐待で養育困難で一人減り38名です。他にもそういう家庭があり、相談所絡みの案件があり、今年荒れています。担任から相談があり、今年の年長はモデルになり得ていないということで相談があり、7月中旬に年長の単独のクラスのようなものを例年より早く行い、それは先生たちは管理はしやすいかもしれません、その子たちが正しく、成長していく方法ではないのではないかと、再三話し合いましたが、私もうまく伝えられず、職員もいっぱい、いっぱい加配もついて、子どもたちも目の前で喧嘩を起こすような状況です。果たして、異年齢を同年齢に替えたことがよかったです、あと半年ある中で基本異年齢ですが、どう進めなければ良いかで悩んでいます。

全国廻って園内研修をしたりすると、不思議だが今年は年長がひどいという話をよく聞きます。うちの職員にこのことを言ったら、「園長のお孫さんも年長ですよ（笑）」と言われた。不思議だが、今年はひどいと言われる。うちの園の良いところはこの間、年中が年長に、「年長なのに、おかしいよ！」と注意していた。うちは民主的だと思う。下が上のおかしいのを注意している。それは多分、職員が子どもから注意されることがあって、その時は職員も謝っているので、その時は年長も謝っていた。幼稚園は当然年齢別でやっていて、1つの年齢でも3クラスとかある。そこが異年齢になると、親の反対も多い。年長は年長らしくなってほしいということで言われていたのが、うちの園では経験が出来ないが、異年齢をしたら、年長さんらしくなったらしい。異年齢でやる方が、年齢別をするよりも、年長さんらしくなったらしい。同じクラスの方は赤ちゃんっぽいが、異年齢の方が下がいるので、しっかりしようとする。「年長さんなのに。おかしい」と言われると、ちゃんとしなきゃということがあって、酷い学年だが、そういうことがある。ただ、無理だったら、年齢別にした方がいいこともあると思う。年長さんだけにすると、年長だけの中でリーダーシップを取るか、先生が取らざるを得なくなるので、子ども文化の中の方が静かになると思う。定員が増えた時にうちも年齢別をしていた。育っていないと、子ども同士が言えない。しばらく年齢別にしないといけないが、その辺が酷かった場合は、仕方ないかなと思う。異年齢だと、3,4,5歳がごちゃごちゃするかと思ったら逆で、意識し始める。やっていない人の誤解。親が心配するが、年長だけでやっている方が赤ちゃんっぽい。片付けさせるためにも、先生が「年少だったらできないよね」と言うと、

こそそ年長がやり始める。その差を使ってやっている。「年長だから、やりなさい」ではなくて、「年少だったらできないよね」と異年齢を使い分け、年長を年長らしくする意味もあると思う。上手に使い分けるといい。異年齢の課題で、この前職員と話したのが、去年、年中さんで味噌づくりをした。それは、その味噌が今年になって、年長がお泊り会の時の味噌汁を使った。その時に私は、「年中だけ来なさい」ではなくて、「来年のお泊り会する子は来なさい」と言わないと、行った子は、何で集まつたのか分からないように、「年長だけ来なさい」ではなくて、「来年、小学校へ行く子、来なさい」と、年齢ではなくて、課題で集める理由を言わないといけないんじゃないかと思って、話し合って、「異年齢児保育」ではなくて、「課題に沿った集団作り」という言い方をしよう、結果的に年齢別になったっていい。先に生年月日で集めるのではなくて、課題で集めたら、当然、来年年中だけだけど、来年泊まる子だけでとか、来年小学校へ行く子たちと言うと、動機付けしやすい気がする。それぞれ、そういう集め方をしようと言っている。異年齢と言うと、発達が違う子たちを無理やり、触れさせようとしているイメージがあるが、そうではない。私たちがやりたい異年齢は、課題に沿ったことをさせようということなので、そういう言葉掛けもしようと、この前職員に話した。その時に集まつた子たちが年長だけでもいいが、年長だけという言い方ではない方がいいかもしれない。

本稿は、2019年8月20日に行われたGTサミット2019の「Q&A」をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。